



- 地域の人材と資源で共生する
- 高齢化社会と上手に向き合う
- 田舎の自然な「おもてなし」を売る
- 地域間交流の深化
- 文化財の保存継承

【基本理念】
地域のエネルギーを結集し
明るく楽しい活力のある施設を
目指します。

「いったいこんな田舎に誰が来てくれるのか」、「地域行事もできないくらい高齢化している状態で地元に残力はないぞ」などマイナスな意見も出て、先の見えない日々もありました。
しかし、観光地のホテルの快適さと比べると、田舎らしくもてなそう。」と発想を転換し、「身近な田、畑、山川、水、空気、爺ちゃん婆ちゃん、笑顔」を体験してもらう施設を目指すことで、運営委員の意見が一致しました。

発想の転換が西友枝らしさに光をそそぐ

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために、町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを毎月シリーズで紹介するものです。
今月は、「西友枝小学校再生の取り組み」の現場からお届けします。

特集
まちづくりの
現場から

甦るかつての学び舎 ～西友枝小学校の再生～

明治7年創立以来、136年間で1,084名の卒業生を送り出してきた西友枝小学校。少子化による児童の減少のため友枝小学校へ統合され、平成22年春に閉校となり、かつて子どもたちの声が響き渡っていた学び舎はどこか淋しい表情に変わりました。

しかし、西友枝地区の有志が中心となり、その学び舎を生き活きとした表情に変える取り組みが行なわれています。

読売新聞西部本社提供

○ 各種団体や自治会活動の支援



小中学校の文化・スポーツクラブ活動、学習塾などの短期合宿、盆踊りや地区運動会など従来の自治会活動を支援します。

○ 農産物直売所



昔ながらの加工品(味噌・漬け物・唐辛子・乾きものなど)や地域で採れたお米や新鮮な野菜を春夏秋冬それぞれ旬の時期に直売します。

○ 体験ふれあい学習



竹の子掘り、お茶摘み、ホタル鑑賞、ホタル簞づくり、田植え・稲刈りわら細工、椎茸駒打・収穫など田舎ならではの体験。宿泊時には夜神楽の見学・体験が出来ます。

○ 活き生きサロン



地域の引きこもり高齢者をなくすため、社会福祉協議会と協力して、毎月ピンシャン体操、茶話会などを開催します。

○ 西友枝資料館



福岡県指定無形民俗文化財である「松尾山お田植祭」をはじめ、西友枝の歴史と文化を紹介します。

「西友枝体験交流センター」の活用内容は次のとおりです。
○ 各種団体や自治会活動の支援
○ 農産物直売所
○ 体験ふれあい学習
○ 活き生きサロン
○ 西友枝資料館

このほか、地域の憩いと交流の場(地元食材を振舞う「田舎の居酒屋」・同窓会や忘年会などを懐かしい教室で行える「交流宿泊施設」)の創出、絵画や書道、陶芸など趣味を展示できる場所(貸ギャラリー)の提供などを計画しています。
また「西友枝体験交流センター」は、広く皆さんから施設の愛称を募集しました。親しみやすく、覚えやすい愛称が期待されています。

さまざまな機能を備えた
交流施設にリニューアル

これからの展望
24年オープンを目指して

平成22年4月からは、県内外の類似施設の視察研修を行うなど、活用に向けた情報収集を行い、翌年4月に、実際の運営をしていくための13名からなる西友枝体験交流センター運営委員会が発足しました。
「自分たちの地域を自分たちのためにどう元気にするか」をテーマに協議を重ねています。

西友枝小学校閉校が決定した平成21年1月、地元有志を中心とする西友枝小学校跡地活用委員会が発足し、閉校後の小学校跡地について検討することとなりました。
委員会では、まず西友枝地区全世帯を対象に活用のは非を問うアンケート調査を2回実施しました。「西友枝住民の誇りであり心のよりどころでもある校舎や跡地を残し活用してほしい」という意見を尊重し、1年間協議を重ねた結果、校舎を残し、これまでは違ったかたちで活用していくことに決まりました。

西友枝体験交流センター 運営委員会メンバー

- 委員長: 福本利三
 - 副委員長: 小林正文
 - 庶務: 藤本和彦
 - 委員
- | | |
|-------|--------|
| 荒巻三枝子 | 加来野江美子 |
| 岸本正利 | 小林正人 |
| 末松富保 | 田添律江 |
| 田山光昭 | 友綱君子 |
| 橋本幸次郎 | 吉本正則 |
- ※50音順



西友枝の誇りをみんなで守る

